

物流

Logistics

陸上・海上を問わず、大型化と効率化の両立で、省エネルギーを推進しています。



✦ 物流の効率化・省エネルギー

コスモ石油では、タンクローリーや内航タンカーの大型化、油槽所の統廃合、他社との共同化など早くから物流システムの効率向上に努め、省エネルギーに取り組んでいます。

タンクローリーの平均車型と積付率

1990年度
平均車型15.0kl
積付率 94.3%



2004年度
平均車型19.0kl
積付率 94.7%



内航タンカーの平均船型と積付率

1990年度
平均船型 1,536kl
積付率 90.0%



2004年度
平均船型 2,817kl
積付率 93.7%



✦ 陸上輸送

タンクローリーによるSS（サービスステーション）への配送はタンカーによる輸送とならんで石油製品の国内物流の大きな部分を占めています。1台あたりの輸送量を増加させることで使用エネルギーの総量を抑制、省エネルギーを推進しております。1990年度比で2004年度は127%の大型化が進められています。

2003年度には単独荷卸を導入、深夜時間帯の配送も可能となり、交通渋滞を回避して効率的な輸送を行うことで、さらなる省エネルギー化を進めています。

✦ 海上輸送

製油所から物流基地、油槽所などへの輸送には、数百から数千t級の内航タンカーを使用します。

これまで受入基地の統廃合、共同化などを推進してタンカーを大型化、積付率も近年では約94%まで高まっており、輸送の効率向上に努めてきました。

今後も夜間荷役の推進、高い積付率を維持することなどで、省エネルギーに努めていきます。

People's Voice



杉井 明
コスモ石油株式会社

SSや工場へガソリン・軽油類を運ぶ、陸送のロジスティクスを計画管理するのが私の仕事。タンクローリーをいかに安全に、効率よく、定期運行させるか。システムを練り、検証を繰り返す毎日です。ドライバーは生身の人間ですから、時にミスも犯します。それを未然に防ぐため、2005年から個々人の運転や荷卸業務を数値（数十項目の採点表）にし、きめ細かな改善指導を行ったり、道路渋滞を避けた夜間配送を導入したり、また同業他社との連携プレーで配送計画を組んだり…と、ムリ、ムダの最小化に努めています。とはいえ地震や台風などの被災地へは、効率性を度外視して配送することも度々。私たちの扱う燃料油が、暮らしと産業のライフラインであること。と同時に、この仕事が社会的重責を担っていることを、改めて感じる瞬間でもあります。

Akira Sugii